理化学機器製造のリガクが RPA導入により年間2000時間以上を削減 3人の有志からはじまったRPA普及活動は全社展開へ

Rigaku

AUTOMATION ANYWHERE

組織の概要

1951年創業、X線分析・熱分析・X線非破壊検査機器の専門メーカーである株式会社リガク。創業以来、「科学技術の進歩を通して人類社会の発展に貢献する」という企業理念を掲げ、発展、成長を続けてきました。X線回折装置や半導体検査装置、非破壊検査装置などの理化学機器の製造、販売を手がけ、国内納入実績は累計で国内5万台以上、国内シェア70%を誇ります。

課題　業務効率化により高付加価値業務への転換を実現する仕組みが課題

デジタルトランスフォーメーション（DX）の重要性が認識される中で、株式会社リガク山梨山梨工場長 元 株式会社リガク 経営企画室の中村栄作氏は、「業務の自動化により、高付加価値業務への転換、人材の有効活用の仕組みを導入することが課題だった」と述べます。
そこで、社内の業務改革のツールとして、経営企画室にてRPAの導入可能性について検討を開始。2018年10月頃より、海外営業部門、サービス部門、総務部門の3部門の有志3人の担当者が集まり、検討が開始されました。
業務カテゴリー別にRPAで自動化できそうな業務をリストアップした結果、31個の業務プロセスにRPAが適用でき、導入によって年間4407時間の工数削減を見込めることが分かり、まずは3部門へのRPAの正式導入を2019年上期から進めることに合意しました。

ソリューション　「クオリティ」「コスト」「デリバリー」の評価軸で総合力の高さが決め手

RPAツールの選定は、「クオリティ」「コスト」「デリバリー」の3つの評価軸で、機能や拡張性、費用、保守性といったポイントが比較検討されました。
その結果、3つの評価軸で最も総合点が高かったのがAutomation Anywhereでした。そこで、導入先の3部門で「Automation Anywhere Enterprise」の評価版を使い、使い勝手の検証を行うことになりました。
評価版の検証は約5ヵ月間にわたって行われ、検証の結果、「使い方に慣れれば難しいと思われたスクリプトも簡単に扱えることが分かり、また、大規模なロボットであってもプログラムの流れが一画面内でわかりやすい点が使いやすい」ことが分かりました。
こうした検証結果を受け、2019年下期に「Automation Anywhere Enterprise」の導入が正式に決定しました。

メリット

年900件
該非判定の自動化

2234時間
年間の削減時間

5部門に拡大
2021年に導入済みの部門の割合

自動化されたプロセス

- 海外営業部における該非判定や受注入力
- 総務部における時間外労働集計、X線検出データ保存
- サービス部におけるeラーニング進捗メールの自動配信など

業界

製造

「Automation Anywhereは使い方に慣れればスクリプトも簡単に扱え、プログラムの流れが見やすく機能や拡張性、費用、保守性などが総合的に優れている点が決め手となりました」

— 株式会社リガク山梨
山梨工場長
元 株式会社リガク
経営企画室
中村 栄作 氏

詳細　3部門で25の定型業務の自動化に成功、削減時間は年間で2234時間にのぼる

「Automation Anywhere Enterprise」の導入により、2019年下期には3部門で25の定型業務の自動化に成功。年間で2234時間の工数削減に成功しました（海外営業1610時間、総務320時間、国内サービス313時間）。
自動化に成功した業務例としては、海外事業部における「年900件の該非判定の自動化や受注入力の自動化」、総務部における「毎日680名分の時間外労働集計や、500名分のX線検出データ保存の自動化」、サービス部における「eラーニング進捗メールの受講者への自動配信、社用車の運行記録自動保管」などが挙げられます。
こうした実績から、2020年上期も活動の継続が決まりました。特に、「Automation Anywhereにはロボットを決まったスケジュールで実行させるトリガー機能が備わっており、コンピューターで発生するイベントと連動させて自動実行させることで、業務をタイムリーに完全自動化させることができる」ということです。これにより、作業を忘れることがなくなりました。

結果　全社展開に向けた社内説明会を経て、188件の業務改善提案が寄せられた

さらに、2020年下期には全社へのRPA導入に向けたWeb社内説明会を国内関連会社も含め計3回、開催しました。
「3部門で作成したRPA動画と実績を説明するとともに、Automation Anywhere Enterpriseを実際に操作したロボットの作成デモや、アンケートを実施して説明会を受けた受講者の興味度や、RPAの作成に前向きな部署、人を把握することに努めました」（中村氏）。
アンケート結果は、未参加者24名を含む259名から回答を得ました。たとえば、「回答者の半分以上が受講前はRPAを知らなかったものの、説明会後、『興味がある』『どちらかというと興味がある』と回答した人は93%を占めた」ということです。
また、説明会後には、どういう業務がRPA化できそうかという質問に対して、188件の提案がありました。
そこで、全社展開のために、Automation Anywhere Enterpriseに代わるツールの再選定が行われました。無償で利用できるAutomation 360の「Community Edition」を実際に利用し、RPAを作成して動作確認を行った結果、「クラウド対応後も基本的な操作は同じで、トリガー機能も継続して利用可能であることが確認できた」ことから、Automation 360を全社展開のRPAに決定しました。

今後の展望　2021年上期からは全社展開を担うRPA推進タスクが発足

2021年上期からはRPA推進タスクが発足。これまでの3部門に加え、改善効果が大きい2部門を加えた5部門で活動がスタートしました。推進タスクが中心となり、運用方針やルールの作成、トレーニングの実施を行い、各部門でRPA作成を行って月次の定例会で情報共有を行いながら運用を行っているところです。
今後は、Automation Anywhere EnterpriseからAutomation 360への移行を進めながら、RPA適用業務を拡大し、グループ内の水平展開を進めていきます。

Automation Anywhereについて

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。
私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォース プラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。

Automation Anywhere　https://www.automationanywhere.com/jp
@AutomationAnwJP　www.facebook.com/AutomationAnywhJP　contact_japan@automationanywhere.com

Copyright © 2022 Automation Anywhere, Inc. Automation Anywhere、A のロゴ、Automation 360、AARI、A-People、IQ Bot、Bot Insight は、米国およびその他の国における Automation Anywhere Inc. の商標・サービス マーク、または登録商標・サービス マークです。本書に記載されるその他の製品および会社名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

2022年1月 バージョン1